

05 株式会社中西製作所

建機・農機の油圧機器の
部品加工領域を拡大。
研磨に近い高精度旋削を実現。
ユニット組み立てへの進出目指す



油圧機器のポベットを手がける



建設機械や農業機械を縁の下で支えている



補助金で導入した西部電機の旋盤2台。ポベットの高精度旋削を実現した



中西社長は「会社をもっと大きくしたい」と意欲的だ

data なかにしせいさくしょ

代表者役職名・氏名／代表取締役社長・中西英介
設立年月日／昭和26年1月1日
住 所／〒454-0934
名古屋市中西区西中島2-201
電 話／052-381-7366
F A X／052-381-7390
U R L／<http://www.0523817366.com>
E-Mail／info@0523817366.com
資 本 金／2700万円
業 種／油圧・電気・農業・医療機械などの
部品加工

より広範囲の仕事獲得へ

油圧ショベルなどの建設機械、トラクターなどの農業機械を縁の下で支える企業が名古屋市中川区にある。中西製作所だ。売上高の6―7割を建機・農機向けが占める。建機や農機は油圧駆動で、油圧機器は建機などの心臓部。中西製作所はその油圧機器のある部品の製造を担っている。油圧ポンプやコントロールバルブのポベットという部品だ。

発注者の油圧機器メーカーは、複数の企業に任せていた仕事を1社に任せて、効率化を図ろうとした。中西製作所にもポベットのより広範囲の仕事を求めてきた。中西製作所が従来担ってきた加工工程に加えて、ポベットの内側と外側の研磨を依頼してきた。中西英介社長は「1社に複数工程を任せたいという要望が強まっている。それにこえ

られる会社が生き残れる」と考えたが、その時点では対応できる技術がなかった。

高性能旋盤2台で連続旋削

そこで「平成27年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」に応募・採択され、西部電機の旋盤「SNC-28HPII」を2台導入した。研磨に近い精度で旋削できる高性能機種だ。2台を連結し、1台目で外側、2台目で内側と連続加工する。中西社長は「連続させることで時間の無駄がない」と効果を説く。

品質保証のため、ミツヨの円筒度測定器も同時に導入した。これら3台の設備投資額4500万円のうち、ものづくり補助金で3000万円の補助を受けた。

加工範囲をさらに広げようと動く。組み立て時のセット部品であるピストンの軸の切削加工・研磨を手がける

ことを目指した。切削加工には対応できたが、研磨用の工作機械は保有していなかった。そこで、ジェイテクトの円筒研削盤「e300G」を導入した。「平成28年度補正革新的なものづくり・商業・サービス開発支援補助金」に応募・採択され、4800万円のうち、3000万円の補助を受けた。

ジェイテクトは円筒研削盤大手で、高価だが高い精度を誇る。中西社長は「円筒研削盤は初めてなので、高精度な機種が必要だった」と選定理由を述べ、「ものづくり補助金のおかげで導入できた」と喜ぶ。

より上の段階を目指して

より幅広い加工に対応したことで、発注者の油圧機器メーカーからの信頼を高めた。1社で複数の工程を担えるようになることで、より多くの仕事を受注していくという戦略は今後変わらない。中西社長は「上のス

テップを目指す」とその先の姿も見据える。油圧機器のユニットの組み立てという、部品加工の上流工程を手がけることが将来的な目標だ。

それはゆくゆくは、油圧機器メーカーと同じ立ち位置になることを意味する。それを実現する頃には、会社の規模も大きくなっていると見通す。現在の従業員数は27人だが、中西社長は「100人体制にしたい」と構想を披露する。売上高についても、平成30年5月期の3億7000万円から成長させ、「10億円は超えたい」と意気込む。

外部での経験が生きる

中西社長は創業者の祖父から4代目にあたり、平成25年に社長に就いたが、最初から後を継ぐことを求められていなかった。システムエンジニアとして複数の会社で働いていたが、事情が変わり、同19年に入社

した。中西社長は「素人感覚を武器に会社を変えてきた」と振り返る。職人の勘と経験だけに頼らず、品質管理の仕組みを導入するなど、顧客の要望に対応してきた。「会社を継ぐことを意識せずに外部で働いてきた経験が大きい」という。社長就任後は、売上高を3倍近くに伸ばした。さらなる高みに向け、前進を続ける。



ジェイテクトの円筒研削盤を導入して加工対象を広げた